

プラスチックリサイクル化学研究会 (FSRJ) 講演会
「添加剤と高度プラスチックリサイクル」
(Relationship between Additives and Advanced Plastics Recycling)

【開催趣旨】

プラスチックのリサイクルは、環境対応のみならず、炭素資源の安定確保という観点からも、今後の日本において避けて通れない最重要課題です。これまで国内では、排熱を利用するサーマルリサイクルが主流であり、現在も全体の約7割を占めています。しかし、サーマルリサイクルは炭素源としての再利用が不可能なため、欧州等ではリサイクル手法として認定されておらず、マテリアルリサイクルやケミカルリサイクルの本格的な推進が強く求められています。ケミカルリサイクルについては、大学や化学メーカー等で30年以上にわたり基礎研究が重ねられてきました。しかし、実際の使用済みプラスチックへ適用する際には、付着物や汚れに加え、酸化防止剤等の添加剤やタルク等の充填剤といった外乱要因の影響を定量的に把握し、制御することが大きな課題となっています。一方、マテリアルリサイクルにおいては、再生後の物性安定化や品質向上のため、プロセス開発にとどまらず、相構造の安定化に向けた添加剤の活用や、物性向上のための複合材料化などの研究開発が不可欠です。このように、プラスチックリサイクルの高度な実用化を実現するためには、材料・プロセス・添加剤技術を包括した知見が欠かせません。こうした背景のもと、昨年度 CMC 出版より『添加剤と高度プラスチックリサイクル』が刊行されました。

本講演会では、同書の執筆陣が一堂に会し、最新の研究知見や技術的課題の解決アプローチについて詳しくご講演いただきます。本会が、皆様の今後の研究開発テーマの立案や事業推進の一助となれば幸いに存じます。

主催：プラスチックリサイクル化学研究会

日時：2026 年 12 月 15 日（火）

会場：〒103-0028 東京都 中央区八重洲 1-8-16 新槇町ビル（事務所 11 階）

TKP 東京駅カンファレンスセンター ホール 12A

<https://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/cc-tokyoeki-central/access/>

アクセス：

電車の方：JR 線 東京駅 八重洲中央口 徒歩 1 分

東京メトロ丸ノ内線 東京駅 自由通路経由 徒歩 7 分

お車の方：駐車場：なし

提携駐車場はございません。近隣の駐車場をご利用ください。

近隣駐車場：東京駅八重洲パーキング東駐車場(徒歩 2 分)

共催：(一社)プラスチック循環利用協会

協賛：公益社団法人高分子学会

プログラムスケジュール

- | | |
|-------------|--|
| 10:00～10:05 | プロローグ FSRJ 前会長 八尾 滋 |
| 10:05～10:30 | 欧州におけるプラスチックの循環利用の現在地とこれから
(公財)日本生産性本部 エコマネジメントセンター長 喜多川 和典 |
| 10:30～10:55 | 低温条件でのポリオレフィン系プラスチックの水素化分解による有用化学品合成 京都大学エネルギー理工学研究所 教授 田村 正純 |
| 10:55～11:20 | プラスチック添加剤を用いたマテリアルリサイクルへの取り組み
(株)ADEKA 執行役員 樹脂添加剤開発研究所長 石川 慎一 |
| 11:20～11:45 | EVA 改質剤による複合プラスチックリサイクル
東ソー(株) 高分子材料研究所 フィルムラミグループ 副主任研究員
佐伯 壮真 |
| 11:45～12:10 | 包装容器の減量・水平リサイクル
花王(株) 包装技術研究所 シニアパートナー 宮本 健一 |
| 12:10～13:10 | 昼休憩 (60 分) |
| 13:10～13:35 | 資源循環におけるプラスチックケミカルリサイクルの役割
東北大学大学院環境科学研究科 教授 吉岡 敏明 |
| 13:35～14:00 | ポリアミドの解重合反応
山口大学 名誉教授 上村 明男 |
| 14:00～14:25 | 熱分解法によるプラスチックの化学原料化と熱分解分析
東北大学大学院工学研究科/環境科学研究科 准教授 熊谷 将吾 |
| 14:25～14:50 | 家電混合プラスチックの高度選別と水平リサイクル
三菱電機株式会社 リサイクル共創センター 資源循環戦略エキスパート
井関 康人 |
| 14:50～15:00 | 休憩 (10 分) |

- 15:00～15:25 循環型社会の実現に向けたエフピコの取り組み
株式会社エフピコ 執行役員 サステナビリティ推進室 ジェネラルマネージャー 富樫 英治
- 15:25～15:50 分離技術を活用したリサイクル事例
(株)リファインバースグループ 取締役 玉城 吾郎
- 15:50～16:15 インライン計測によるメカニカルリサイクルの高度化
三井化学株式会社 リサーチフェロー 伊崎 健晴
- 16:15～16:40 「物理劣化・物理再生理論」と多回リサイクル
福岡大学 名誉教授／広島大学 客員教授 八尾 滋
- 16:40～16:45 エピローグ FSRJ 会長 吉岡 敏明

意見交換会

17:00～18:00

参加要領

1) 定員 150 名

2) 参加費 (税込み)

本講演会の参加費用は、ご所属・会員区分によって異なります。

以下をご確認の上、お申し込みください。

参加区分	参加費 (税込)	対象・条件
会員	5,000 円	主催研究会・法人会員/個人会員
非会員	11,000 円	上記のいずれにも該当しない一般の方
学生	3,300 円	会員・非会員共通

※【非会員の参加費について】

非会員様の参加費には、次年度の年会費が含まれております。

ご参加いただいた方は、追加のご負担なしでそのまま次年度 (令和 9 年 4 月～10 年 3 月) の正会員としてご登録いただけます。ぜひこの機会にご利用ください。

3) 申込方法

プラスチックリサイクル化学研究会 (FSRJ) ホームページの行事参加申込画面 (<https://www.fsrj.org/>) からお申し込みの上、参加費を 11 月末日までにご送金下さい。

4) 振込先

銀行名：ゆうちょ銀行

店名：〇八九店（読み ゼロハチキュウ）

科目：当座

口座番号：137131

口座名義：プラスチックリサイクル化学研究会

5) 問合せ先

プラスチックリサイクル化学研究会

E-mail : fsrjoffice@fsrj.info